



和伸工業株式会社

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023 年1月1日～ 2023 年12月31日)



発行日: 2024年3月30日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	P-3
環境経営方針	P-3
組織の概要	P-4
事業や製品(商品)の紹介	P-4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	P-5
主な環境負荷の実績	P-6
環境経営目標及びその実績	P-6
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画	P-7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	P-11
緊急事態対応の試行・訓練	P-11
代表者による全体の評価と見直し・指示	P-12
これまでの環境活動の紹介	P-12



□ごあいさつ

当社は昭和25年（1950年）に設立され、アルミニウム地金および同合金を主原料とし、鋳造から製品に至る一貫生産体制により、押出型材、管、棒、線材を製造、販売するアルミニウム圧延メーカーであります。私たちはアルミニウムの製造をとおして、常に「和」を伸ばすことを企業の基本的な理念として、今日まで歩んでまいりました。それはお客様をはじめ、地域社会の方々、株主、従業員と会社をとりまくあらゆる人々から「信頼」される企業になるということをモットーにし、その基盤となるものは「和」だと信じてきたからです。21世紀は、人間と自然との調和を保ちつつ、より豊かな社会を創造していく時代だといわれています。そしてその社会理念の根底に流れるものが相互の「信頼」であり、その「信頼」をアルミニウムの製造を通して築き、社会に貢献できる企業を目指して、これからも従業員一同なお一層の努力をしていく所存です。

環境経営方針

<環境経営理念>

当社は、アルミニウム合金の押出型材の製造販売の企業活動を継続して行くにあたり、環境にやさしい金属の特色を生かしながら、環境負荷を抑え、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

<環境保全への行動指針>

*各項目に具体的な目標数値”現在よりも”20%改善”を設定する。

1. 当社の事業活動に関わる環境関連の法規制や条例等を特定し遵守する。
2. 省資源・省エネルギーを推進し二酸化炭素排出量の削減に努める。
3. 産業廃棄物や一般廃棄物の削減に努める。
4. 水使用量の削減に努める。
5. 特定化学物質使用量の削減に努める。
6. 製品またはサービスの環境配慮に取り組む。

本方針を、エコアクション21を通じて、全社員の環境配慮意識を向上することにより持続可能な環境保全システムを構築する指針とします。

制定日：2012年1月1日

改定日：2023年1月1日

代表取締役社長 吉井裕司

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

和伸工業株式会社
代表取締役 吉井 裕司

(2) 所在地

本社 大阪市西成区玉出西2丁目16番21号（登記上）
美原工場 大阪府堺市美原区多治井841
本町営業部 大阪市中央区本町4丁目5番地3号（大和本町ビル1階）

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 工場長 北野 貴之 TEL：072-361-1835
担当者 保全課 池宮 繁之 FAX：072-361-2581

(4) 事業内容

アルミニウム展伸材の製造及び販売

(5) 事業の規模

売上高 45.9 億円 (2023年度)

	美原工場	本町営業部	合計
従業員 名	117 名	6 名	123 名
延べ床面積 m ²	50098 m ²	71 m ²	50240 m ²

(6) 事業年度

1 月 1 日 ～ 12 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 和伸工業株式会社
対象事業所： 美原工場 本町営業部

対象外： 常駐協力会社 ワイズプロダクツ (株) オリオン加工

活動： アルミニウム展伸材の製造及び販売

□事業や製品(商品)の紹介

当社の特性・強み

7 t 反射炉及び鋳造設備を保有し、鋳造から製品までの一貫生産ができます。
また、大手企業には負けない、迅速な対応を強みとし、あらゆる分野からの要求にお応えすることができます。

1. 多様なニーズに即応
2. 原料から製品までの一貫生産で、優れた品質を保証
3. 蓄積されたノウハウを最大限に活かした生産技術
4. 高品質を維持する万全の品質保証体制

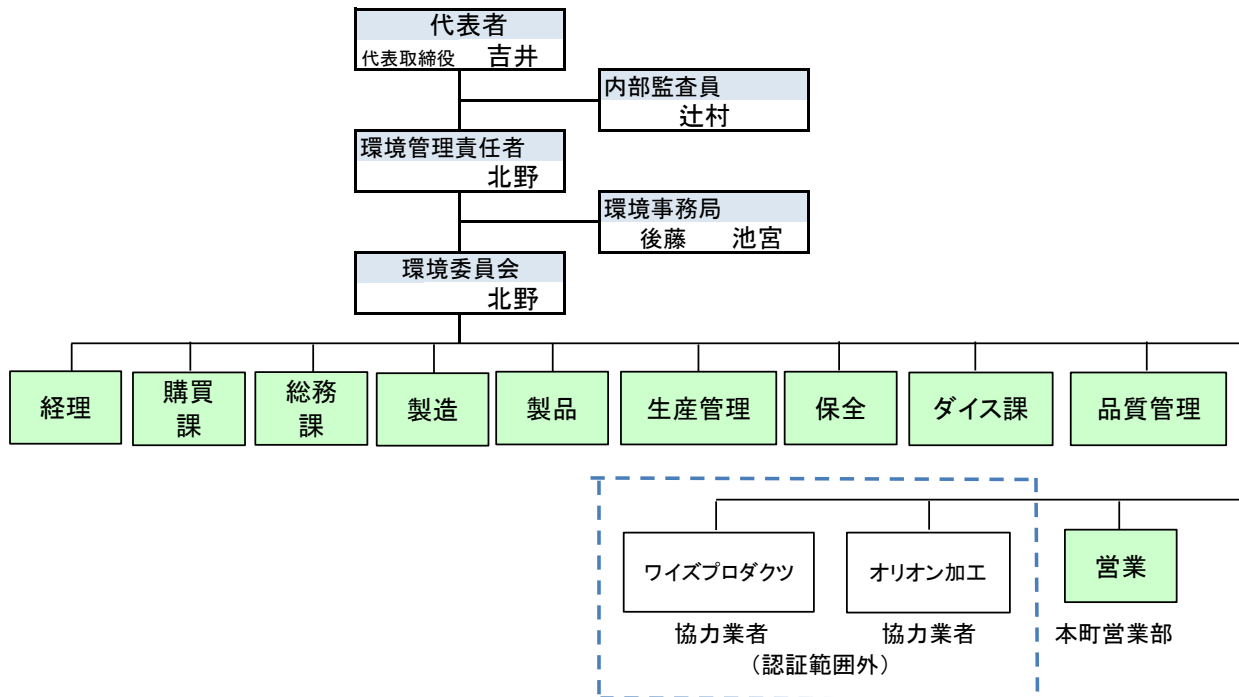
主要生産設備

鋳造設備	7 t 反射炉	1 基
	連続鋳造設備	1 基
	ビレット高速切断機	1 基
	HO 炉	1 基
押出設備	1500 t 押出機	1 基
	1800 t 押出機	1 基
	2000 t 押出機	1 基
	ビレットヒーター	3 基
抽伸設備	50 t 抽伸機	1 基
	多本引抽伸機	4 基
	ロール矯正機	5 基
	テンパー炉	2 基
熱処理炉	焼鈍炉	1 基
	焼入炉	1 基

主要生産品目

合金系	主な用途例
1000系	導電材、フィン、日用品、照明器具 フィン、熱交換部品
2000系	鍛造素材（二輪、四輪車関係） シリンダー
3000系	フィン、コピードラム、インパクト材
5000系	船舶部材、車両、配管部材 カメラ部材、通信機器部材
6000系	鍛造素材、シリンダー 建材、パイプなど一般汎用材料 車両、椅子パイプ、フレーム材
7000系	車両構造物、二輪、四輪部材

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長(課長)	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	4,992,838	4,837,494	4,879,265
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	12,590	11,118	10,638
産業廃棄物排出量	kg	403,880	202,930	19,340
水使用量	m ³	37,230	36,502	58,323

※二酸化炭素排出係数 0.418 kg-CO₂/kWh 関西電力の調整後の係数(2017年度)

□環境経営目標及びその実績

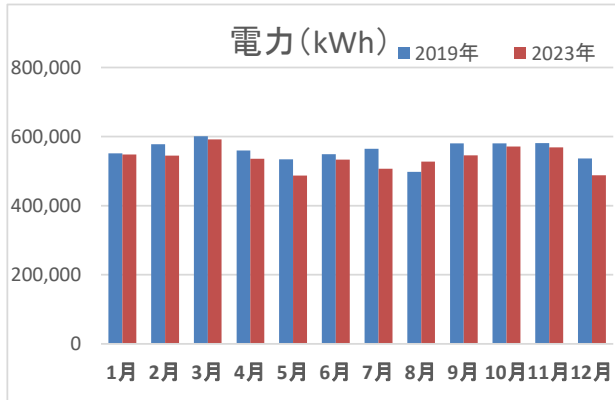
項 目		年 度	基準(2019年)	2023年		評価	2024年	2025年
			(基準年実績)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減(美原+本町)	kg-CO ₂		2,804,221	2,579,883	2,696,586	×	2,551,841	2,523,799
	基準年度比			92%	96%		91%	90%
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂		2,096,266	1,677,013	1,684,712	×	1,656,050	1,635,088
	基準年度比			80%	80.4%		79%	78%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO ₂	4,900,487	4,256,896	4,381,298		4,207,891	4,158,887
一般廃棄物の削減(美原+本町)	kg		14,030	10,943	10,638	○	10,803	10,663
	基準年度比			78%	76%		77%	76%
廃アルカリ(苛性)の削減	kg		94,270	122,551	134,350	×	120,666	119,723
	基準年度比			130%	143%		128%	127%
水道水の削減(美原+本町)	m ³		15,294	9,482	10,644	×	9,329	9,176
	基準年度比			62%	70%		61%	60%
化学物質パークロ使用量削減	kg		51,150	71,610	53,040	○	70,587	69,564
	基準年度比			140%	104%		138%	136%
環境に配慮したその他の取組み			行動目標(次項による)					

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(美原十本町)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	
・老朽化蛍光灯のLED化	△	年間トータル目標92%に対し96%という結果である。年間を通じほぼ平均して高い数値であり、主要設備の一部電化の影響もあるが、省エネタイプの設備への変更や改造を計画的に進めていかなければならない状況であり、24年は中期的な計画を検討していく。
・昼休憩時、照明の消灯	○	
・不良削減による生産性向上	○	
・油圧機器油漏れ点検	○	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	×	



<取組紹介>

冷却水ポンプの更新 : トップランナーモーター採用
モーター容量 15kw

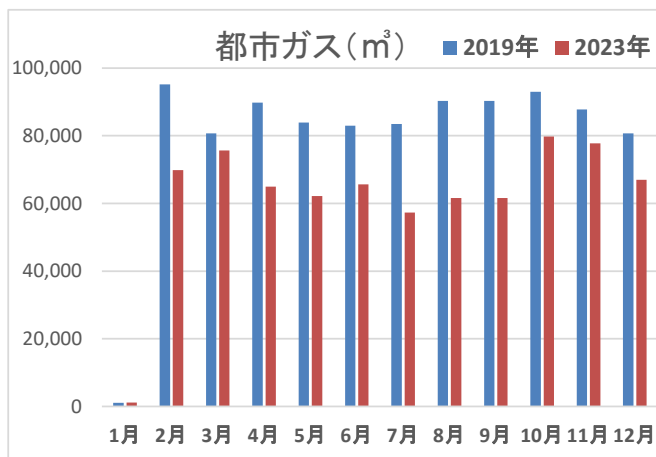


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	551,704	578,250	601,032	560,074	534,421	549,039	564,647	497,776	580,001	580,001	581,142	536,806
2023年	548,002	545,229	591,597	536,197	487,285	533,749	507,397	527,667	545,507	571,657	569,021	487,855

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	
・溶解炉セラミックボールの定期清掃	×	基準年度比80%目標に対し、80.4%で概ね目標を達成した。主要設備の一部を電化したことにより削減できた形である。燃焼設備は老朽化設備が多く、バーナーの定期点検の着実な実行に加え、省エネ製の高いバーナーや炉材への変更など最新の技術動向を調査し導入を検討していく。
・溶解炉バーナー点検清掃	△	
・溶解炉・加熱炉の空気比点検調整	○	
・押出熱処理炉および加熱炉 生産性向上	○	

<取組紹介>

1号熱処理炉の炉内断熱材全面張替を実施

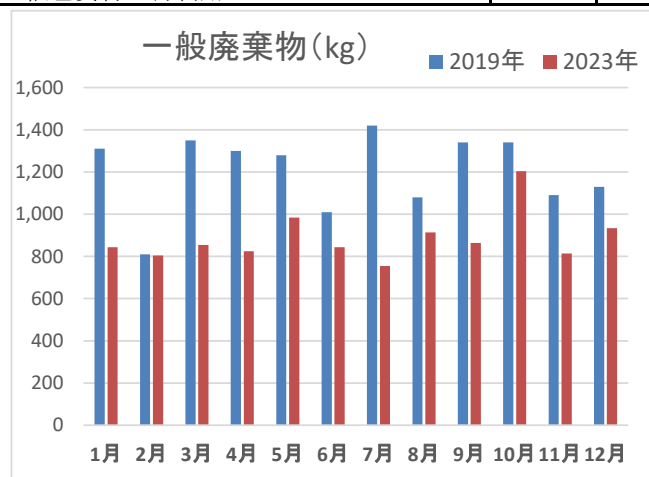


工事中の炉内の状況



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	1,097	95,188	80,707	89,767	83,946	83,025	83,526	90,348	90,348	92,994	87,780	80,694
2023年	1,150	69,869	75,625	65,003	62,190	65,613	57,328	61,572	61,572	79,756	77,791	67,015

一般廃棄物の削減(美原十本町)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	通期76%であり、基準年度比目標を達成した。梱包副資材のリサイクルや各職場での取組みによるものと判断する。24年度は自治体の紙の分別ルールの見直しもあり、新ルールを理解・周知し、的確に対応していく。
・表示の明確化による分別の徹底	△	
・ペーパーレス化などによる削減	△	
・ポスターなどの掲示	×	
・梱包資材の再利用	△	



<取組紹介>

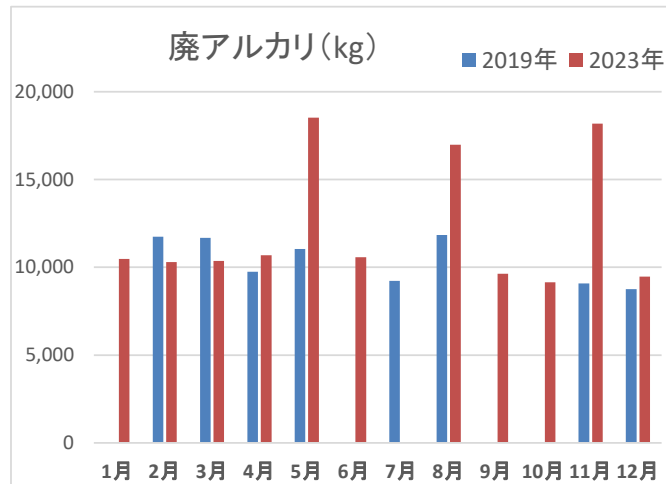


購買課中心に実施している紙の分別状



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	1,310	810	1,350	1,300	1,280	1,010	1,420	1,080	1,340	1,340	1,090	1,130
2023年	844	804	854	824	984	844	754	914	864	1,204	814	934

廃アルカリ(苛性)の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	一年の総排出量134,350、基準値143%と目標を大幅未達となった。昨年と比較しても1.07倍となっている。苛性処理が多い製品が増えていることはあるが、苛性処理槽の加熱装置の変更以降、使用量が増加しており、再度加熱方法の見直しなど設備面での改善の検討を進めていく。
・ダイス洗浄後の排水の再利用	○	
・苛性投入量の明確化	△	
・不必要な空焚きの削減	△	



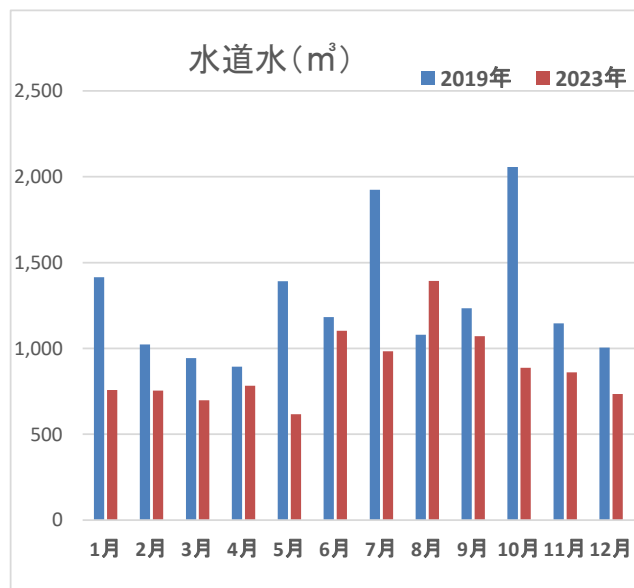
<取組紹介>

苛性処理前のダイスに残留したアルミの事前切除、洗浄時のこまめな確認による過剰溶解の抑制を実施中



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	0	11,750	11,670	9,740	11,040	0	9,220	11,840	0	0	9,080	8,760
2023年	10,480	10,300	10,370	10,680	18,520	10,570	0	16,990	9,640	9,150	18,180	9,470

水道水の削減(美原+本町)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	2019年基準年と比較すると70%と低減できているが、昨年目標1%削減に対しては未達となった。大幅な削減は難しいレベルになってきているが、無駄な使用はしない様、定期的な点検や清掃を着実に実行していく。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	△	
・押出機冷却水使用の管理化	×	
・水道水メータの定期検針	○	
・水漏れ箇所の早期発見	△	



<取組紹介>

300t水槽の定期点検・清掃
地下水用の本水槽の問題発生時には上水を使用することになるため、定期的な清掃を実施中



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	1,415	1,024	943	894	1,392	1,182	1,923	1,079	1,234	2,056	1,146	1,006
2023年	759	754	698	783	618	1,103	984	1,393	1,072	887	860	735

化学物質パークロ使用量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	抽伸材の生産量の影響もありますが、生産量に合わせた入替頻度の見直しなどにより目標は達成した。引き続き生産量と洗浄能力を見ながら入替頻度の最適化を進めていく。また代替品への切替、抽伸油変更による洗浄性の改善など最新の技術動向を確認し、更なる低減策を検討していく。
・スチームトラップの点検・取り替え	○	
・ボイラー使用時間の徹底	×	
・ボイラー定期点検	△	
・使用時間管理などによる空運転削減	△	

パークロ使用量 実績 取組紹介

期間	購入量	槽内への投入量	売却リサイクル量
1/1～12/31			
2021年実績	77,740kg	141ドラム	27,190kg
2022年実績	73,730kg	198ドラム	23,150kg
2023年実績	53,040kg	167ドラム	14,790kg



パークロ洗浄槽の定期点検を実施

割れなども無く、異常なし



環境に配慮したその他の取組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・緑化活動	○	・各職場での緑化活動、SDGSの啓蒙、梱包副資材の再利用は引続き取組みを推進
・SDGSの啓蒙活動	○	・CO2排出量削減に向けたアルミニウム地金の使用量を抑制しスクラップ原料の使用を拡大していく取組みの検討を開始
・梱包副資材の再利用	○	24年は具体的な取組みを展開していく。
追) 市中スクラップの活用 (検討)	○	

取組紹介



総務部緑化活動

総務部にて定期的に花壇の整備を実施中

また、掲示板には、SDGSについての掲示も行い、環境に対しての取組みの紹介など啓蒙活動も継続中



□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	産業廃棄物（廃プラ、廃油等）、一般廃棄物
P R T R 法	第一種指定化学物質（テトラクロロエチレン）
消防法（危険物）	危険物の保管
騒音規制法	空気圧縮機、送風機、切断機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁防止法	貯油施設 特定施設の管理
浄化槽法	浄化槽
電気事業法	高圧電気設備
大気汚染防止法	溶解炉 加熱炉
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
省エネ法	第一種エネルギー指定工場

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

本年度、外部からの苦情は有りませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023年11月3日 16:10～	■実施場所 構内全域
■参加者： 和伸工業社員・和伸グループ含む	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 鑄造工場の火災を想定し、例年通り実施を行った。	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
避難訓練を本年度も行い、通報・避難場所・役割分担など再認識出来ました。その中で消火訓練として、新入社員・技能実習生対象に消火器の使用法を実施しました。 また今回は新たな取り組みとして担架の使用法について教育しました。災害時の対応について、日常から様々な訓練を行っていく事が非常に重要である事を認識しました。	
■実施状況の様子	
●避難指示の放送から避難完了までの時間 2022年度の避難時間： 8分49秒 2022年度の避難時間： 6分46秒 2023年度の避難時間： 5分37秒 各職場の主要メンバーが大きく変わっていないこともあり、スムーズに引率し避難ができるようになっていました。 また今回は担架の使用法の訓練も実施、災害時に備え、担架の配置場所も増やしました。 ●第2回 火災想定による訓練 実施日： 2023年12月28日 実施内容： 消防ポンプの取扱いと放水訓練 対象者： 作業長以上および安全衛生委員 数年振りに消防ポンプの取扱い方法及び放水訓練を実施しました。 各人の連携の仕方や取扱い方法を理解するとともに放水時の反力の体感しながら、適正な放水時の体勢を体得できました。	担架の使用法教育の様子  

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年2月25日

EA21の認証を取得して以降、各目標の達成に向け、全社で活動を展開し、一部の活動項目を除いては着実に右肩下がりに低減している点は、EA21の取組みの成果として評価しています。

但し、低減はしているものの目標は未達となっている項目が散見される点は反省すべきと考えています。目標は与えられたものではなく、自社で掲げたものであり、その数字には執着をもって取り組む必要があります。

EA21認証取得から10年以上が経過し、節減や再利用など日常業務の中での取り組みは行きついた感もあり、今後はCO2排出量削減、省エネ、リサイクルにつながる最新の技術動向の監視を強化し、当社にとって有効な手段を探索して新設備や新技術を積極的に導入していくように考えています。

一方、当社に取り巻く環境を見ますと、アルミニウム合金の原料であるアルミニウム地金はその製造工程で多量のCO2を排出することからリサイクルの重要性がクローズアップされています。その中で当社では溶解鑄造工場を保有しており、自社内で発生したスクラップの再利用はもちろん、市中のスクラップを活用し再利用することが可能なため、その特徴を活かしてCO2排出量低減につなげていくことも当社の社会的責任の一つと考えています。

今後は、この取組みによるCO2排出量削減効果もEA21の取組みの成果として捉え、EA21の活動の一つの柱に加え引き続き全社一体となった取組みを展開していく所存です。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☒ 変更あり 実績を踏まえて見直すこと
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

- ①、太陽光設置 2022年1月稼働（自家消費型）
場所：和伸商事棟屋根 太陽光パネル：0.370kw×604枚 計223.48kw
（申請出力：148.5kw）
- 太陽光設置写真

